

# 千葉商工会議所景気動向調査

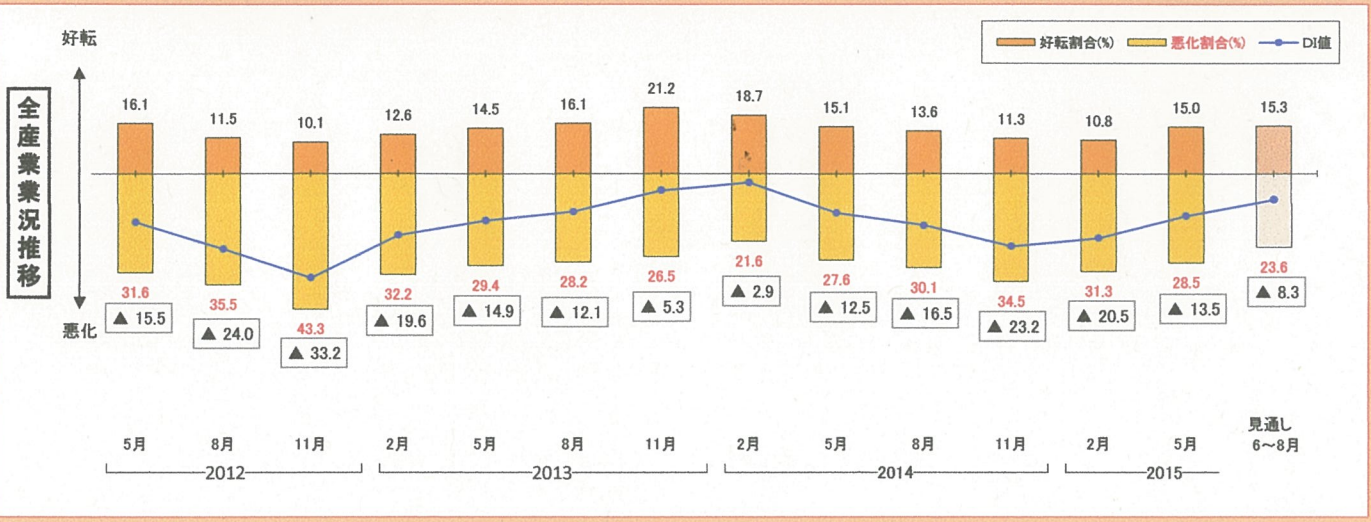
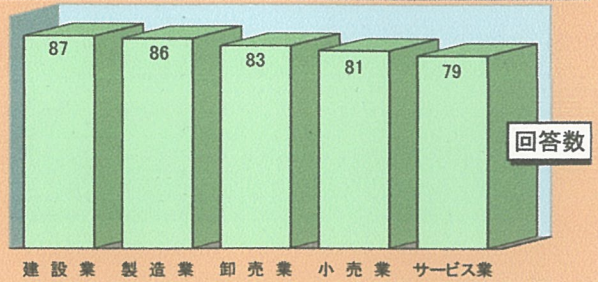
……平成27年5月期調査結果報告……

調査期間：平成27年5月13日(水)～5月25日(月)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社  
(回答 416社 回答率 83.2%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。  
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



## 【全体の特徵】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成27年2月、以下同じ)と比較して、製造業で横ばいであったものの、他の4業種で上昇した結果、全産業合計DIは7.0ポイント上昇して▲13.5となり、2期連続の改善となった。また、向こう3ヶ月(6月～8月、以下同じ)の先行き見通しは、卸売業で横ばいの見通しであるものの、他の4業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より5.2ポイント上昇の▲8.3となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、全業種で上昇した結果、全産業合計DIは7.7ポイント上昇して▲9.4となり、5期ぶりの改善となった。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、卸売業とサービス業を除く3業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より5.8ポイント上昇の▲3.6となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、製造業で横ばいであったものの、他の4業種で上昇した結果、全産業合計DIは4.0ポイント上昇の▲18.2となり、2期連続の改善となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、全業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より4.8ポイント上昇の▲13.4となっている。

全体を総括すると、業況が好転と回答した企業が増え、悪化と回答した企業が減り、景気感は2期連続して改善しているもののDI値は依然としてマイナス。また、仕入単価DIは2期ぶりの悪化となり、仕入単価の高止まりの状況が続いている。従業員DIは過去最高値であった2月期からは改善されたものの、依然として各業種で従業員不足が発生している。

## 【業種別特徴】

### ・建設業

前回調査と比較して、業況DIは12.1ポイント上昇して▲3.5に、売上DIは2.0ポイント上昇して▲5.8に、採算DIは4.0ポイント上昇して▲11.5となった。業況DIは2期連続、売上DIは6期ぶり、採算DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「設備投資については、先行きの不透明感と消費税増税が決断を鈍らせる結果となっており、小規模での投資に絞らざるを得ない」「昨年より好転しているが、見積り依頼の件数は増えていないので、先行きに不安が残る」等の先行きの不透明さを指摘する声があったほか、「管工業(建設業)は職人不足」「東京ビッグサイトのオリンピック関係の工事に伴い、幕張メッセの展示会の予定等、徐々に増えてきている。職人さん不足は電気工事業も同じ」等人手不足を訴える声も寄せられた。

【調査結果のポイント】 \* 景気感は2期連続して改善しているもののDI値は依然としてマイナス。仕入単価の上昇、従業員不足傾向も続く。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。  
<http://www.chiba-cci.or.jp/>



# 【全産業】

## ・製造業

前回調査と比較して、業況DIは0.3ポイント下降して▲17.9に、売上DIは0.6ポイント上昇して▲16.7に、採算DIは横ばいで▲21.4となった。業況DIは5期連続で悪化したものの、売上DIは4期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より上向くとの方になっている。

調査回答企業からは、「輸入品を中心に仕入品のコストが上昇しているが、販売品への価格転嫁がなかなか進まない」「製造のパート従業員が不足しており、売上を伸ばすことは困難である」といった声があった。一方、「雰囲気は昨年と比べ良い感じを受けている。売上の数字が比例してついてくるか不安もあるが、先行きの見通しは期待している状況」等先行きの好転を期待する声もあった。

## ・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは7.0ポイント上昇して▲19.2に、売上DIも10.7ポイント上昇して▲9.6、採算DIも6.7ポイント上昇して▲18.3となった。業況DIは5期ぶり、売上DIは2期ぶり、採算DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは横ばいで、売上DIは現状より下向くが、採算DIは上向くとの方になっている。

調査回答企業からは、「円安輸入高となり仕入価格は毎月のように上昇。競争激化により採算は非常に悪化している」「食品製造業は原料の輸入が多く毎月のように価格高騰しているのに、販売価格は据え置きにしなければならない状況にある」等円安の影響をあげる声があった。

## ・小売業

前回調査と比較して、業況DIは6.4ポイント上昇して▲26.0に、売上DIも19.9ポイント上昇して▲14.8に、採算DIも8.8ポイント上昇して▲27.2となった。業況DIは3期連続、採算DIは2期連続の改善となり、売上DIは3期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIともに上向くとの方になっている。

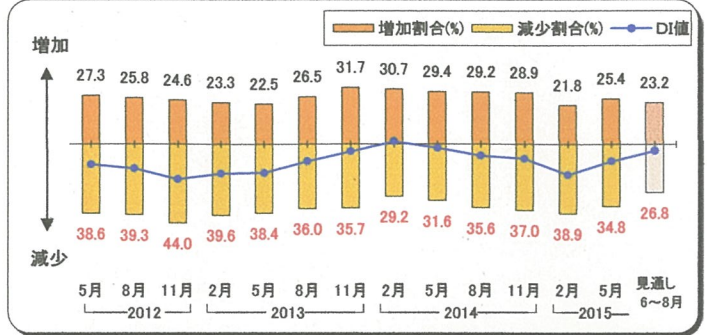
調査回答企業からは、「売上収益は前年の消費増税の反動減から比較し好転はしている」「過当競争下の転嫁値上げは難航必須で、人手不足と労務費の上昇も加わり、経営圧迫の要素の多い年になりそう」との声があった。また、人手不足、個人消費の弱さを訴える声もあった。

## ・サービス業

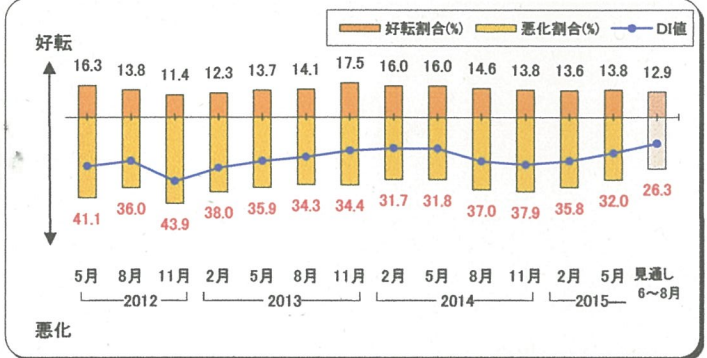
前回調査と比較して、業況DIは11.7ポイント上昇して▲1.3に、売上DIも8.2ポイント上昇して0.0に、採算DIも2.5ポイント上昇して▲12.6となった。業況DI、採算DIともに2期連続の改善となり、売上DIは3期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、採算DIともに現状より上向くが、売上DIは下向くとの方になっている。

調査回答企業からは、「株式市場を含め、景況感はずべて良い報道だが、実感が持てないのが現状である」「好景気であるという実感なくずらずと不況のラインまで後退している感じがする」等景気回復の実感が無いとの声があった。また、仕入価格の上昇、人件費の高騰を訴える声もあった。

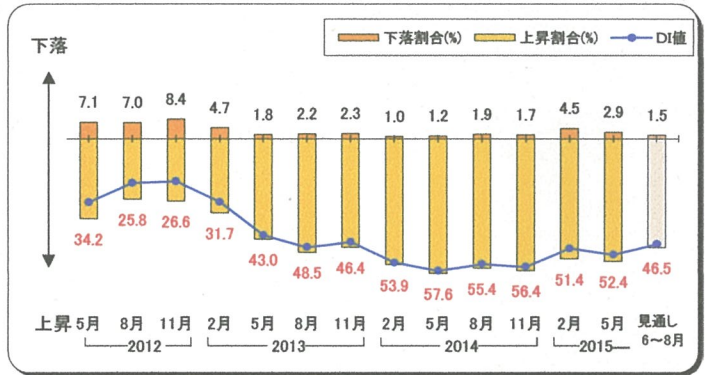
### 売上推移



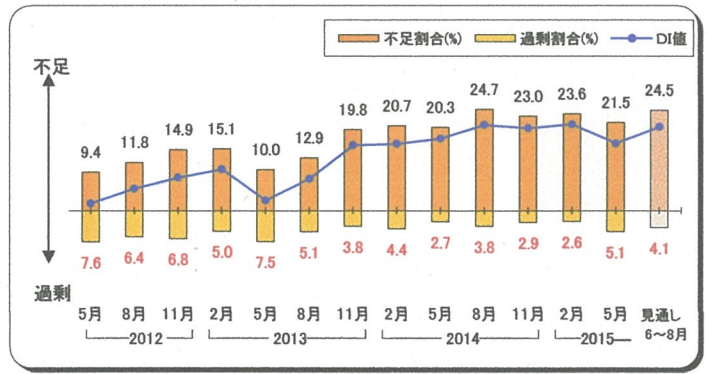
### 採算推移



### 仕入単価推移



### 従業員推移



### 資金繰り推移

